

第1回三条市総合計画策定協議会 会議録（概要）

●会議を開催した日時及び場所

日時 令和4年6月8日（水）午後3時～4時37分

場所 三条市役所 第二庁舎 301 会議室

●出席委員（◎会長 ○副会長）（23人）

野崎 寛行 堀 善一 佐藤 栄 佐藤 隆司

丸山 増雄 古川 裕之 大竹 啓五 佐藤 洋一

大西 朗 田中 好 土田 初 布施 栄一

◎宍戸 邦久 ○兼古 耕一 殖栗 孝雄 清水 昭

五十嵐 諒真 石黒 正晴 井上 佳純 木下 久美子

長谷川 正樹 米山 堅

（オンライン）

西潟 陽菜

（欠席委員）（3人）

菊地 幸子 平澤 則子 山田 彫子

●出席者

三条市長 滝沢 亮

総務部長 笹川 浩志

福祉保健部長 佐藤 和明

建設部長 三巻 正志

消防長 古関 勝昭

政策推進課長 米持 克広

政策推進係長 中村 拓也

主任 田村 諭

市民部長 上原 勝善

経済部長 片野 義孝

教育部長 栗林 明子

課長補佐 石井 美紀

主任 吉田 玲子

主事 波塚 由香里

●傍聴者

なし

●報道機関

三條新聞社

新潟日報社

●内容

- 1 開会（午後3時開会）
- 2 委嘱状交付
- 3 市長挨拶
- 4 出席者紹介
- 5 議事
 - (1) 会長及び副会長の選出について
会長に宍戸委員、副会長に兼古委員を選出

(2) 諮問

(3) 策定の基本方針について

資料1、資料1-1

(4) 策定スケジュール等について

資料1-2

(5) 三条市総合計画の骨子（案）について

（米持政策推進課長 説明）

資料1、参考資料1により説明

～質疑～

（長谷川委員）

資料1-5「横軸について(案)」の中の1「地域における暮らしの場の維持」については、新しいまちづくりの根本な理念を述べていると思うが、これは現計画の中の多極分散型のまちづくりの理念を受け継いでいるものだと私は理解している。これはこれでよいと思うが、ちょっと足りない部分があると思っている。御存知のように、三条市は、三条市と栄町と下田村が合併してできた新しい三条市である。多極分散型というのはとても大事なことだと思うが、これが余りに重要視されると、せっかく3つの市町村が合併して新しい三条市を作るぞという視点が薄れるのではないかと心配している。

私としては、せっかく合併して新しい三条市が生まれたのだから、三条も栄も下田も、それぞれの地区がほかの地区についても興味、関心を持ち、3地区が協力し合っ
て新しい三条市を作るんだという視点をちゃんと用意しておかないと、少し不足ではないかと実は思っている。今の3地区がお互い他地区についても興味、関心を持ち、協力し合っ
てというのは、今のはやりの言葉で「共生」の精神とよく似ていると思っ
ている。せっかく合併したのだから、やはり協力し合っ
て新しい三条市を更によくし
ていこうという視点がないと、ちょっと心配になるので、横軸についての1番につい
て追加したらどうかというものは、私案として、地域における暮らしの場の維持を基
点にして3つの地区の共生による新しい三条市の形成というような視点も必要ではな

いか。

栄と下田の商工会が合併し新しい商工会が生まれるという話があるそうだが、まさにこの動きだと思う。3地区が協力し合って新しい三条商工会を発展させるぞという精神を、やはり忘れてはいけないのではないかと思うがいかがなものか。

(大竹委員)

長谷川委員のお話について、私は三条観光協会からの推薦で本日来ており、暮らしている所も下田の奥の方であるが、先ほどの説明にもあったように、下田地区の人口減少が多くなってきている。

もちろん共生ということも大事だと思うが、共生で一緒にやりましょう、では本部はどこにしますか、どこが中心になってやりますかというときに、これまでは、どうしても三条市の市街地が中心になってしまうことが多かったので、地域における暮らしの場の維持ということで、それぞれの地域、特に私がこの文章を読むと、本来交通のことを考えれば、不便な所に暮らしている人は、冬場のこともあるので、どんどんまちの方に出ていってという話になっていく、効率のことを考えるとそうになっていくと思う。それでも、下田の奥の方に暮らしている人間がいて、人口が少ないのに、経費がかかっているという、市に対する負担や迷惑をかけているなというところも気持ちとしてあるが、やはりここで暮らしていかざるを得ない人も多く、ここで暮らしていきたいと思っている人たちも多いので、そういった視点も忘れてもらいたくない。共生ももちろん大事だが、その声の下に不便に暮らしている人たちに、逆に光が当たらなくなるようなことがないようにしていただけたらと今のお話を伺っていて思った。

(長谷川委員)

誤解のないように言いたいですが、私は一極集中に賛成はしていない。まず、第一に多極分散型がいいなと思っている。ただ、多極分散型ばかりだと、せっかく合併してみんなで協力し合わなければいけないよ、新しい三条市を作りましょうという視点が薄れる恐れがある。私も栄にも下田にも観光で行く。今後国道289号が4年後に開通するという動きに興味関心を持っていて、下田地区はいろんな担い手を作り始めていてがんばっているなと思っている。ところが、そういう気持ちは、三条地区に住んでいる人たちに少ないような気がする。また、栄地区の人たちもそうだと思う。逆に言うと、三条地区の人たちは、栄地区のことなどを余り考えられないのではないか。私が言いたいのは、3つの地区がそれぞれしっかりとやるのは大事だと思うが、他の地区のことも、興味、関心を持ってお互い皆協力すると、もっとほかの地区もよくなるよね、全体として三条市がよくなるよねという視点も、追加で必要と思う。敢えて順番を付ければ、多極分散型が1番で、みんな共生、協力していこうというのが2番と思っている。自身が地区協議会の委員でもあるが、他地区の議事録を見ると下田は下田のこと、栄は栄のこと、三条は三条地区のことを専ら議論していて、ほかの地区のこ

とはどうだろうという話にはまずならないので、今こそ他地区にも興味、関心を持ってやるべきではないかと思う。

(兼古副会長)

私も地区協議会の委員として参画しており、長谷川委員の御意見も理解できるが、やはり興味があり、よく知っているのは自分の住んでいる地域で、よその地域のことは基本的には身近なこととしては感じられないのは致し方ないと思う。

三条市は合併しても、同じように市町村合併した新潟市や長岡市などと比較してエリアが狭いため、そういう面では情報共有しやすい地域だと認識している。

地区協議会は、あくまでも自分が住んでいる地域のコミュニケーションとか、いろいろな課題ということで、狭いエリアの方が様々な形で行政にお願いしやすいし、利益を共有しやすい。問題は他地域の情報をいかにして共有するか、共生というのは、情報を共有するという仕組みをまず作ること。地区協議会で、よその地域の情報が的確に分からないので、疑問としてそういうことを知りたいという意見が出ているという話は私も聞いている。気持ちの上での一体化を図るためにも、この計画の中に情報共有という仕組みを取り入れることによって、意識的に情報発信にも関係があると思うが、そういう形で配慮しながら、この地域の一体性を考えていく方向で取りまとめられたらいいのではないかという印象を受けた。

(古川委員)

自分も一定の年齢であり、子どもも大きくなってきて、PTAの会議や地域の集まりなどいろいろと参加してきたが、このような会で感じていることとして、例えば、資料1-3の縦軸で「子どもが健やかに育つ環境づくり」とあるが、これからの三条を担っていくであろう子どもたちの意見が多分吸い上げられていない会議が多いということである。大人たちがこれでいいはずだということと、実際子どもたちが感じている住みやすいまちだとか、こんな所だったらずっと三条から引っ越さないという感覚は、絶対にずれがあると思っている。可能かどうか分からないが、子どもたち、中学生とか高校生くらい声を聞かないといけないのだろうと思っている。

資料にある市民アンケートの対象も満18歳以上となっているが、対象年齢をもう少し下げてもどうか。そうすると、何か違ったところが聞こえてくるような気がする。結局、こういう子どもたちが、まちの真ん中でいろいろ動き、担っていくわけで、せっかくこういう集まりがあって、PTAの代表の方やメンバーもいらっしやることですし、そんなところの声も聴けたらいいのかなと感じている。

(宍戸会長)

多くの御意見をいただいたが、大きくは2つ、共生、情報共有、子どもの意見、特に中学生や高校生の意見、これらに対して事務局から何かあるか。

(米持政策推進課長)

それぞれ御意見をいただいた委員の皆様にご感謝申し上げます。1点目、共生の件で、地域における暮らしの場の維持の視点は、現在の総合計画における多極分散型社会の堅持という考え方、それぞれの地域の個性を、仮に非効率であったとしても、守り抜いていきたいと思いますという考え方に基づくものであり、長谷川委員のおっしゃるとおりである。

大竹委員からは、下田の奥で行政に迷惑をかけているといったお言葉も頂戴したが、私どもとしては、逆に下田地域があるからこそ三条市が三条市たり得る部分もあるのだろうと考えている。それぞれの地域の個性が失われてしまっただけで、どこにでもあるまちと一緒にしようというところが、現在の総合計画の根底に流れている。そのため、決してそういうことではなくて、それぞれの地域を守り抜くことが結果的に地域の魅力を保全することにつながるということは、先ほど説明させていただいたとおりである。

合併からかなり長い年月が経っていることからという御意見については、まず、それぞれの地域の魅力、暮らしの場を守っていくことが、それぞれの地域の魅力を保全していくことなのだという考え方に基づくもので、若干ミスリードがあったのかなと思っているが、三条地域、栄地域、下田地域という単位で考えているわけではない。その上で、共生という視点だが、現在の総合計画、あるいは前回の総合計画については、合併から間もなかったこともあり、3地区の協議会を設けて、策定、進捗管理を行ってきた。ただ、長谷川委員がおっしゃった御指摘も様々なところからいただいており、確かにそうだなというところもある。一方で、兼古副会長がおっしゃったように、各地域に対する課題というのは、やはり各地域にお住まいの方の方がよくわかっていらっしゃるでしょうし、各地域で考える方がいいという考え方もある。

そういったものを踏まえて、今回の総合計画の策定に当たっては、3地区分けることなく一つの協議会として検討を進めさせていただくこととした。その中で、地域の目線ということもやはり大事だろうということで、先ほど申し上げた現在の総合計画の進捗管理をしていただいている三条地区協議会、栄地区協議会、下田地区協議会、それぞれの会長から御出席いただいて地域の課題について検討いただきたいという思いもあって現在の体制をとっている。

長谷川委員がおっしゃったように、オール三条の形で策定していきたい。ただ、そのときに地域の目線も必要だよということ、それなりの仕掛けを設けたところなので御理解をいただきたい。

古川委員からいただいた、子どもの目線ということだが、おっしゃるとおりだと思う。一方で、様々な御意見もあり、やはり子どもが安心して暮らせるような社会を作るということが大人の責任だという御意見もある。そういった御意見をどう調整していくのかということもあって、いったん古川委員の御提案につきましては、検討

させていただきたいと思う。折しも、ちょうど今日、新たな取組として、下田マーケティング中学校というものをやっている。何かというと、下田地域の観光、どうしたら人が来てくれるようなまちになるのかということの中学生から提案してもらい、それを施策に反映させていこうという取組を行っているところである。そういった、子どもの目線をどうこの計画に取り入れていくのか、その点については改めて私どもの方で検討させていただきたい。

(宍戸会長)

私も全国の自治体を見ているが、「共生」というものがキーワードになると思っている。ある意味「個性」を前提とした言葉である。「個性」があるからこそ「共生」ができるし、副会長がおっしゃったように「情報共有」というのもキーワードになると思う、中学生、高校生の意見の部分を含めて、事務局は検討をよろしくお願いしたい。

(6) 専門部会の設置について

(米持政策推進課長 説明)

資料 1-1 により説明

～質疑～

宍戸会長が指名することとなっており、後日お示ししたい。

資料 1-1 縦軸の政策分野ごとに専門部会を設置するが、地域づくり/災害に強い地域づくり専門部会に関しては、いずれも日常生活に深く関わるものであることから、内容が密接に関連すると思われる、そうしたことから一括して御審議いただくことを考えている。こちらに所属される委員におかれては、政策分野が二つということになり、他の専門部会と比べて御意見をいただくことが広くなると想定されるが、日程調整には配慮させていただきたいと考えており、御理解と御協力をお願いしたい。

専門部会の所属については、委員の皆様の推薦団体などを考慮した上で会長が指名すると申し上げた。御希望に沿うことができるかのお約束はできかねるが、所属を希望する専門部会があれば、事前に事務局にお聞かせさせていただきたい。可能な範囲で調整させていただきたい。

(宍戸会長)

専門部会の所属については、規程により会長が指名する形とさせていただきたいが、可能な限り御意向に沿った形になるよう配慮させていただきたい。

(7) その他

特になし

6 閉会 (午後 4 時 37 分)